



助動詞「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小野, 米一, 李, 建華 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00003473

助動詞「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」について

小野米一・李建華

一. 始めに

現代日本語の助動詞はたくさんあるが、その中で「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」の異同は、これを勉強する外国人にとって非常に識別が難しい。それらの違いはたいへん微妙で、私たちが質問しても明確には説明できない日本人が少なくないようである。しかし、外国語として日本語を勉強している者にとっては、どうしてもこれらの違いを明らかにしておく必要がある。そこで、北海道教育大学旭川分校の学生24人を対象としてアンケート調査をこころみた。その結果をまとめると、あとに掲げる別表のようになった。

さて、別表から、「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」の四語はそれぞれ異なった特徴を持っており、意味の違いもかなりあるような印象を受けた。すなわち、置き換え可能の場合もあるが、そうでない場合も少なくない。

本稿では、この調査で得た結果をふまえながら、現代日本語における「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」の意味・用法を比較検討することにしたい。^(#1)

二. 分析 (一)

0. 調査結果

アンケート調査は、別表の56の例文を掲げ、それぞれの空欄部分に「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」をあてはめた時、その表現が適切であるか、不適切と思われるか、いずれともはっきりしないかを、○、×、△印で答えてもらったものである。なお、例文1～32については、推量の助動詞「だろう」は明白に使えない例であると考えて選択肢の中に入れなかった。

別表によると、56の例文すべて、「ようだ」は○印が圧倒的である。「みたいだ」はそのほぼ半数が○印、「らしい」は五分の一が○印である。「だろう」は「らしい」とほぼ同程度かと思われる。また、「みたいだ」の○印が多数で「らしい」の×印が多数の項目は14項目ほどあるのに対し、その逆は0である。「だろう」について言えば、例文1～32をのぞいて、○印の多い項目はいずれも「みたいだ」「らしい」の場合も○印が多い。「だろう」の○印が少ない項目は、「みたいだ」「らしい」も少ないもの3項目、「らしい」が少ないのは9項目であり、「だろう」のみが少ないのは、3項目である。このことは、この四語の意味上のつながりが「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」の順であることを示している。したがって、以下に、「ようだ」と「みたいだ」、「みたいだ」と「らしい」、「らしい」と「だろう」、それぞれ隣りあわせた二語の比較をおこない、これらの語の特質を探ることにしたい。

なお、用例の出典及び略号については本稿の末尾に一括して掲げた。

1. 「ようだ」と「みたいだ」

1-1 たがいに置き換えが可能な場合

例文4. 君は全くハンサムだな、まるでナルシス____。(幻)

(「のようだ」○24, 「みたいだ」○23, ×1)

38. まるで荒野の四十日の放浪中のイエス・キリスト____。(幻)

(「のようだ」○24, 「みたいだ」○22, △2)

39. すごいですね、電気に触れた____。(幻)

(「ようだ」○22, ×1, △1, 「みたいだ」○23, △1)

このように、比況の用法については、「ようだ」と「みたいだ」はほとんど重なる。ただし、両者には文体上のちがいがあり、「ようだ」はやや書きことば的、「みたいだ」は話しことば的である。

33. どうしてもだめ____なら、早くあきらめなさい。(外)

(「なよう」○23, △1, 「みたい」○22, ×1, △3)

34. 彼の家が留守____ったら、隣の家にことずてを頼んできてください。(日)

(「のようだ」○24, 「みたいだ」○20, ×1, △3)

35. 今日中に間に合わない____なら、明日でもかまいません。(日)

(「よう」○24, 「みたい」○17, ×6, △1)

36. 気が進まない____なら、お断りになってもいいんですよ。(教)

(「よう」○24, 「みたい」○8, ×10, △6)

37. わからない____ったら、御遠慮なくお聞きください。(教)

(「ようだ」○24, 「みたいだ」○9, ×9, △6)

上の33~37の「ようだ」「みたいだ」は、他の人の判断、意志、感情を仮定的な条件句として表そうとする場合に使われている。その仮定条件をさらに婉曲的に表現することによって、相手に対するやわらかな言い方にしたものである。36, 37は本人自身の意向を直接に表現するため、外見としてとらえる「みたい」が使われにくいのであろうか。

55. 「お姉さんの言うことはよく当たるからな」と丈は言ったが、さほど気にしている____もなかった。(幻)

(「ようで」○23, △1, 「みたいで」○17, ×3, △4)

56. 私は、父が即刻反対するかと思っていたのである。が、父は、別に驚いた____もなく、「この際、それも一つの方法かもわかりませんね」と、いい出したのである。(地)

(「ようで」○22, △2, 「みたいで」○13, ×9, △2)

寺村秀夫によれば^(註②)「推量のヨウダは、ふつう否定の形では使われない。」ということだが、例文55, 56は推量を表す「ようだ」の否定形になっている。年層差(若者ことば)とか地域差(方言)の問題があるかもしれないが、少なくとも「使われない」とは言いきれないように思われる。「ようだ」に比べ、「みたいだ」の○印がいくぶん少ないのは文体的なちがいによるものであろう。

6. 芋を洗う____混雑。(日)

(「ような」○24, 「みたいな」○15, ×5, △4)

7. 奥歯に物の挟まった___言い方。(基)
(「ような」○24, 「みたいな」○15, ×4, △5)
8. 雪___白い肌。(日)
(「のように」○24, 「みたいに」○19, ×1, △4)
9. 蚊の鳴く___声。(日)
(「ような」○24, 「みたいな」○8, ×8, △8)
10. 鬼の首を取った___気持。(基)
(「ような」○24, 「みたいな」○14, ×4, △6)
11. 女の腐った___奴。(基)
(「ような」○24, 「みたいな」○12, ×6, △6)

例文6～11は慣用句といわれるものである。このような表現では、口語的な「みたいだ」が使われることは少ない。6, 7, 8, 10と○印が比較的多いのは、アンケート回答者が若者であるからであろう。9の「みたいだ」の○印が少ないのは、「蚊の鳴く」という表現が回答者たちになじみのうすいものになってきていることをうかがわせる。

1-2 置き換えが不可能な場合

- 例文15. もうその___少女っぽい仕草と縁を切ろうと決心している。(幻)
(「ような」○24, 「みたいな」○2, ×22)
16. その___不遜なことはとうてい由紀にはできない。(幻)
(「ような」○24, 「みたいな」×24)

これによって、「みたいだ」は「この、その、あの、どの」といった連体詞には付かないことがわかる。ちなみに、「こんな、そんな、あんな、どんな」といった、より口語的な連体詞には「みたいな」「みたいに」も下接するようであるが、「ようだ」は下接しないように思われる。

23. 約束の時間に遅れない___, 早目に家を出る。(教)
(「ように」○24, 「みたいに」×24)
24. 痛みが治まる___, 注射を打ってもらった。(教)
(「ように」○23, △1, 「みたいに」×24)
25. 風がよく通る___, もっと窓をあげなさい。(日)
(「ように」○24, 「みたいに」×24)

上の23～25の「ように」は、それぞれ行為の目的を表すものである。この種の「～ように」の用法は、「～ようにするために」が簡略化されたものだと思えることができる^(註⑩)。「みたいだ」にはこの用法はないと考えられる。

26. 一日も早く全快なさいます___, お祈りしております。(日)
(「ように」○24, 「みたいに」×24)
27. 風邪をひかない___, 気をつけてください。(外)
(「ように」○24, 「みたいに」×24)
28. 展示品には手を触れない___してください。(日)

- (「ように」○24, 「みたいに」×24)
 29. 夜は早く寝る___しなさい。(教)
 (「ように」○24, 「みたいに」×24)

例文26~29の「ように」は願望、依頼や勧告などの内容を表すものである。ここで取り上げた例文は、いずれも、「一日も早く全快なさいますように。」「展示品には手を触れないように。」などと「~ように。」の形で言い切って、願望、依頼などの意味を表すことができる。また28, 29の用法は、実質的には、それぞれ要求であったり命令であったりするわけだが、その場合、「展示品には手を触れないでください。」「夜は早く寝なさい。」のような直接的な要求や命令に比べ、表現が婉曲になっていると言える^(註⑩)。このような婉曲的な用法は「みたいだ」にはないと考えられる。

30. 用意する材料は次___ものである。(教)
 (「のような」○24, 「みたいな」○2, ×20, △2)
 31. 彼は事件の経過を次___述べた。(日)
 (「のように」○24, 「みたいに」×22, △2)
 32. この点については、第一表に示した___結果が得られた。(日)
 (「ような」○24, 「みたいな」○9, ×6, △9)

30~32の「ようだ」は、これから述べる、また既に述べた事柄と何かが一致する関係にあることを指示する意を表すものである^(註⑩)。このような文例においても「みたいだ」は使われにくいようである。32に○印が多いのは、若者の間において「みたいだ」の用法が拡張して、次第に「ようだ」の領域に重なっていきこうとする言語変化のきざしであろうか。

2. 「みたいだ」と「らしい」

2-1 たがいに置き換えが可能な場合

- 例文43. 寝ぼける癖がある___。(幻)
 (「みたいだ」○23, ×1, 「らしい」○23, △1)
 45. どういう態度を取るべきか迷った___。(幻)
 (「みたいだ」○22, ×1, △1, 「らしい」○22, △2)
 48. 郁江などはそうは思っていない___。(幻)
 (「みたいだ」○23, △1, 「らしい」○23, △1)
 53. 自分はよほど混乱した顔をしている___。(幻)
 (「みたいだ」○19, ×2, △3, 「らしい」○23, ×1)

このように、文末における判断表現として、「みたいだ」も「らしい」も使われる。ただし、表現内容にははっきりとした違いがある。表現者の主観的推量・判断を示す「みたいだ」の判断材料はどのようなものであってもよいが、「らしい」は状況や伝聞などによる客観的判断材料にもとづく推定判断を表す。これは、「彼はどこかへ行ったみたいで/らしく、電話に応答がなかった。」のような連用中止法の場合も同様である。

33. どうしてもだめ___なら、早くあきらめなさい。(外)

(「みたい」○20, ×1, △3, 「らしい」○5, ×18, △1)

34. 彼の家が留守______たら、隣の家にことずてを頼んできてください。(日)

(「みたいだ」○20, ×1, △3, 「らしか」○11, ×6, △7)

35. 今日中に間に合わない______なら、明日でもかまいません。(日)

(「みたい」○17, ×6, △1, 「らしい」○6, ×16, △2)

39. すごいですね。電気に触れた____。(幻)

(「みたいだ」○23, △1, 「らしい」○7, ×13, △4)

55. 「お姉さんの言うことはよく当たるからな」と丈は言ったが、さほど気にしている____もなかった。(幻)

(「みたいで」○17, ×3, △4, 「らしく」○5, ×14, △5)

これらは、基本的には43など文末の用法と同じであるが、文例だけ抜き出して前後の文脈がつかめない場合、客観的判断材料が不十分で、「らしい」の使用率が落ちる結果になったのであろう。

2-2 置き換えが不可能な場合

- 例文2. 針______瘦せた人物である。(幻)

(「みたいに」○22, ×1, △1, 「らしく」×24)

4. 君は全くハンサムだな、まるでナルシス____。(幻)

(「みたいだ」○23, ×1, 「らしい」○1, ×22, △1)

12. あなた______若い看護婦さんはずいぶん人気がありそうじゃないか。(幻)

(「みたいな」○23, △1, 「らしい」×24)

「みたいだ」には比喩、例示の用法があるが、「らしい」にはこれがない。

3. 「らしい」と「だろう」

3-1 たがいに置き換えが可能な場合

- 例文50. 運転などはすっかり念頭から消えてしまっている____。(幻)

(「らしい」○23, △1, 「だろう」○19, ×4, △1)

51. 人の目にはそうは映らない____。(幻)

(「らしい」○23, ×1, 「だろう」○23, △1)

54. 転生輪廻に確証があることは間違いない____。(幻)

(「らしい」○21, ×1, △2, 「だろう」○24)

これらはいずれも文末の用法であり、相互に置き換え可能であるが、その意味内容は異なる。「だろう」は表現者の単なる主観的な推量判断であるが、「らしい」は客観的条件にもとづく推定判断である。文例51で「だろう」と「らしい」を比較すると、このことがよくわかる。54は、「間違いない」という主観的判断を示すことばがあるので、「だろう」が多く、「らしい」がやや少なくなったものと思われる。

40. このビルのどこにいても、しゃべっていることが聞こえちゃう____。(幻)

(「らしい」○21, ×2, △1, 「だろう」○17, ×5, △2)

40は、なかなか思うようにしゃべることのできる場所が見つからない時の表現だと仮定されるが、この場合、「らしい」と「だろう」の状況は同じでない。「らしい」では、部屋がないとか、反響が大きいとか、他人の話し声が聞こえたなど、ここでしゃべることができないことを積極的に裏付ける状況が認められなければならない。一方、「だろう」では、必ずしもそのような客観的な条件がそなわってなくてもよく、話し手自身がここでしゃべらないほうがいいのか、しゃべったら危険があるようだとか、という主観的な判断が下しうる状況であればよい。

3-2 置き換えが不可能な場合

例文47. 高鳥君と彼らはどうも割れてしまった____。(幻)

(「らしい」○23, △1, 「だろう」○1, ×21, △2)

49. 丈の視線を意識する____, 顔色はますます蒼ざめてきていた。(幻)

(「らしく」○18, ×4, △2, 「だろう」×21, △3)

これらは客観的状況にもとづく推定を表すものであって、「らしい」は使えるが、「だろう」は使えない。ただし、「のだろう」とすると2例とも使用可能となるのは、単なる状況推量ではなく、そういう状況をもたらした背景、原因などの推量が含まれるからである。

34. 彼の家が留守____ったら、隣の家にことずてを頼んできてください。(日)

(「らしく」○11, ×6, △7, 「だろう」×24)

のような仮定表現には「だろう」は使えない。「だろう」は表現者による推量判断が言い切りの形で示される。(翻訳調の書きことばでは、「……だろうことは、……」あるいは「……だろうような……」という連体形が用いられることがある。)

以上、「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」の、隣りあわせた語のそれぞれの比較をおこなった。さらに考察を深めるために、比較の組み合わせをかえて、「ようだ」と「らしい」、「ようだ」と「だろう」、「みたいだ」と「だろう」について検討してみよう。

三. 分析(二)

1. 「ようだ」と「らしい」

『日本文法大辞典』によれば^(註⑩)、「ようだ」の接続は、
用言および、助動詞「れる・られる」「せる・させる」「ない」「たい」「らしい」「ます」の連体形につくほか、体言と一部の副詞には、助詞「の」をはさんで接続する。また「この・その・あの・どの」「こんな・そんな・あんな・どんな」など、コソアド系の連体詞にも接続する。とある。私が集めた200余りの例文に「ようだ」が「らしい」に下接するものはなかった。「こんな」「そんな」などについても同様である。ただし、助動詞「た」には下接する。

例文47. 高鳥君と彼らはどうも割れてしまった____。(幻)

(「ようだ」○24, 「らしい」○23, △1)

この場合、「ようだ」も「らしい」も、最近の高鳥君と彼らの行動の状況から「割れてしまった」と判断したと考えられる。また

45. どういう態度を取るべきか迷った____。(幻)

(「ようだ」○23, △1, 「らしい」○22, △2)

も、「迷った」と判断したのは、他からの情報か、直接に相手からの情報かによるものと思われる。ところが、

51. 人の目にはそうは映らない____。(幻)

(「ようだ」○24, 「らしい」○23, ×1)

では、「らしい」が客観的な判断であるのに対し、「ようだ」は自身がそう感じているようにもとれる。

36. 気が進まない____なら、お断りになってもいいんですよ。(教)

(「よう」○24, 「らしい」○4, ×20)

「気が進まない」という本人の感情をやわらかに表現するのに「ようだ」は使えるが、「らしい」では無理がある。「らしい」は、ある物事について、かなり確信の持てる客観的根拠にもとづく判断の表現形式だからである。

また、「らしい」には、

○丈にはやはり子供らしいナイーブさが蔵されていることがわかる。(幻)

○いかにも元不良少年の康夫らしい懇願だと思うよ。(幻)

○自分らしくもない自らを叱りつけるが、こだわりが除けない。(幻)

のように、形容詞を作る接尾語として名詞に直結して用いられる場合がある。これらはいかにもそれにふさわしい性質や状態を備えているといった概念化された意味を表すものである。接尾語の「らしい」は、打消の内容を表す場合、「らしくない」「らしくもない」「らしくはない」の形で用いられるのに対し、推量を表す助動詞の「らしい」は「……ないらしい」となる。

2. 「ようだ」と「だろう」

例文50. 運転などはすっかり念頭から消えてしまっている____。(幻)

(「ようだ」○24, 「だろう」○19, ×4, △1)

54. 転生輪廻に確証があることは間違いない____。(幻)

(「ようだ」○24, 「だろう」○24)

上の50, 54の例文では「ようだ」「だろう」ともに推量を表す。「ようだ」が対象をやや外側から見るのに対して、「だろう」は内側から見る。したがって

47. 高鳥君と彼らはどうも割れてしまった____。(幻)

(「ようだ」○24, 「だろう」○1, ×21, △2)

で、「どうも」という客観的判断を求める疑問詞には、「だろう」は続かない。また、「ようだ」の持つ、比況、比喩、例示の用法もない。

3. 「だろう」と「みたいだ」

上述の「だろう」と「ようだ」の場合と同様、「だろう」が主観的な推量であるのに対し、「みたいだ」は客観的な状況判断による推量である。また、「みたいだ」には比況、比喩の用法があるところに特色が見られる。

4. 「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」
 a あの人はきものを着ているが、なんだか外人のようだ。
 b あの人はきものを着ているが、なんだか外人みたいだ。
 c あの人はきものを着ているが、なんだか外人らしい。
 d あの人はきものを着ているが、なんだか外人だろう。
 e あの人はきものを着ているが、外人だろう。

bは「(なんだか)外人だ」と言うのに近い。aは、その人に近づいて話すのを聞いて外人と判断するような場合である。cはある距離をおいてその外観から判断する場合である。dが使えないのは、「なんだか」が客観的な根拠によって判断を下しているのに対して、「だろう」は主観的な推量を表すからである。したがって、「なんだか」のないeは成り立つ。

四. 結び

調査に用いた56項目の例文は「ようだ」に焦点をあてたために、「みたいだ」「らしい」「だろう」それぞれが使える場合、それらはすべて「ようだ」と置き換えが可能である。しかし置き換えた場合、「みたいだ」はほぼ意味が同じであるが、「らしい」「だろう」は違う意味を持つ場合がある。「みたいだ」は日常語的なくだけた話しことばとして用いられるので、改まった場面や、目上の人には、あまり使われないようである。『研究資料日本文法』によれば^(註④)「『みたいだ』が広く用いられ、現在では『ようだ』にとってかわる傾向さえある。」とある。今回の調査項目が書かれたものを資料とする例文であったためか、こういう傾向は必ずしも顕著ではなかったが、文例32や仮定条件の33～37、さらに比喩の慣用的な用法2～11などにいくぶん観察された。また、「らしい」は客観性のある根拠に支えられた判断を表すのに用いられる。それに対して、「だろう」は話し手自身の単なる予想、推測の類を表すのに用いられるものである。

客観的な根拠の大小ということで、以上の四つの助動詞を並べてみると、

らしい

ようだ

みたいだ

だろう

となる。あとになるほど客観的な根拠が少なくなる。

注

①「だろう」は、助動詞「だ」の未然形「だろ」に助動詞「う」がついたもので、助動詞として立てない説もあるが、本稿では「だろう」を一つの推量を表す助動詞として扱った。

②寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味II』（くろしお出版、昭和59年）P.246による。

③国際交流基金『文法II——助動詞を中心にして——』（凡人社、昭和55年）P.57による。

④は③と同じ。P.58による。

⑤は③と同じ。P.58による。

⑥松村明編『日本文法大辞典』（明治書院、昭和46年）P.891による。

- ⑦今西浩子「ようだ」(鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法7——助辞編(三)助詞・助動詞辞典——』所収, 明治書院, 昭和60年) P.94による。

用例の出典一覧

本稿で資料として使った作品及びその略称は、次の通りである。

1. 幻・『幻魔大戦』平井和正, 角川文庫, 昭和55年。
2. 教・教師用日本語教育ハンドブック④, 『文法II——助動詞を中心にして——』国際交流基金, 凡人社, 昭和55年。
3. 日・『日本語教育事典』日本語教育学会編, 大修館書店, 昭和58年。
4. 外・『外国人のための基本語用例辞典』第二版, 文化庁, 大蔵省印刷局, 昭和58年。
5. 基・『基礎日本語II』森田良行, 角川書店, 昭和55年。
6. 地・『地上七階』源氏鶏太, 集英社文庫, 昭和58年。

参考文献

- 国際交流基金(1980)『文法II——助動詞を中心にして——』(教師用日本語教育ハンドブック④, 阪田雪子・倉持保男執筆)
- 日本語教育学会編(1983)『日本語教育事典』大修館書店。
- 文化庁(1983)『外国人のための基本語用例辞典(第二版)』大蔵省印刷局。
- 松村明編(1971)『日本文法大辞典』明治書院。
- 森田良行著(1980)『基礎日本語II』角川書店。
- 國廣哲彌編(1982)『ことばの意味3. 辞書に書いてないこと』平凡社。
- 寺村秀夫著(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版。
- 鈴木一彦・林巨樹編(1985)『研究資料日本文法7——助辞編(三)助詞・助動詞辞典——』明治書院。
- 北原保雄著(1981)『日本語助動詞の研究』大修館書店。

別表

	ようだ			みただ			らしい			だろう		
	○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△
1. 幽霊でも見た。顔をしているぞ。	24	0	0	4	11	9	0	22	2			
2. 針。瘦せた人物である。	22	1	1	22	1	1	0	24	0			
3. 鋭利な刃物で切り落とした。叫びを断ち切った。	21	0	3	17	3	4	1	23	0			
4. 君は全くハンサムだな、まるでナルシス。	24	0	0	23	1	0	1	22	1			
5. 胸がいたくなる。情念を感じさせる存在だった。	24	0	0	7	14	3	0	24	0			
6. 芋を洗う。混雑。	24	0	0	15	5	4	0	24	0			
7. 奥歯に物の狭まった。言い方。	24	0	0	15	4	5	0	23	1			
8. 雪。白い肌。	24	0	0	19	1	4	0	24	0			
9. 蚊の鳴く。声。	24	0	0	8	8	8	0	23	1			
10. 鬼の首を取った。気持ち。	24	0	0	14	4	6	0	24	0			
11. 女の腐った。奴。	24	0	0	12	6	6	0	24	0			
12. あなた。若い看護婦さんはずいぶん人気がありそうじゃないか。	22	2	0	23	0	1	0	24	0			
13. 郁江。ぱっちり。と免疫ができていないからね。	23	1	0	22	2	0	0	23	1			
14. 僕は笛川先生。方にお教えるほど立派な人間ではありません。	24	0	0	13	2	9	0	24	0			
15. もうその。少女っぽい。仕事と縁を切ろうと決心している。	24	0	0	2	22	0	0	24	0			
16. その。不遜なことはとうてい。由紀にはできない。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
17. コーラ。冷たい。飲み物がほしい。	23	1	0	19	1	4	0	24	0			
18. サッカーやラグビー。激しい。運動は、私には向かない。	23	1	0	24	0	0	0	24	0			
19. 北海道。寒い。地方では春と夏がいっしょに来る。	23	1	0	23	0	1	2	22	0			
20. 遅刻しない。気を。つけなさい。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
21. 健康のために、できるだけ。運動をする。心がけよう。	24	0	0	1	23	0	0	24	0			
22. 手紙をもらったら、すぐ。返事を書く。している。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
23. 約束の時間に。遅れない。早目に家を出る。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
24. 痛みが治まる。注射を。打ってもらった。	23	0	1	0	24	0	1	22	1			
25. 風がよく。通る。もっと窓を。あけなさい。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
26. 一日も早く。全快な。さいます。お祈り。しております。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
27. 風を。ひかない。気を。つけなさい。	24	0	0	0	24	0	0	24	0			
28. 展示品には。手を。触れない。してください。	24	0	0	0	24	0	0	23	1			
29. 夜は。早く。寝る。しなさい。	24	0	0	0	24	0	1	23	0			
30. 用意する。材料は。次。ものである。	24	0	0	2	20	2	1	23	0			
31. 彼は。事件の。経過を。次。述べた。	24	0	0	0	22	2	1	23	0			
32. この。点。については、第一。表。に示した。結果が。得られた。	24	0	0	9	6	9	2	22	0			
33. どう。しても。だめ。なら、早く。あきらめ。なさい。	23	0	1	20	1	3	5	18	1	3	18	3
34. 彼の。家が。留守。したら、隣の。家に。こと。ずて。を。頼ん。で。きて。ください。	24	0	0	20	1	3	11	6	7	0	24	0
35. 今日。中に。間に。合わない。なら、明日。でも。か。ま。い。ませ。ん。	24	0	0	17	6	1	6	16	2	1	22	1
36. 気が。進。ま。ない。なら、お。断。り。にな。って。も。いい。ん。です。よ。	24	0	0	8	10	6	4	20	0	0	24	0
37. わ。か。ら。ない。したら、御。遠。慮。なく。お。聞。き。下。さ。い。	24	0	0	9	9	6	3	19	2	0	24	0
38. ま。る。で。荒。野。の。四。十。日。の。放。浪。中。の。イ。エ。ス。キ。リ。ス。ト。	24	0	0	22	0	2	1	21	2	0	20	4
39. す。ご。い。です。ね。電。気。に。触。れ。た。	22	1	1	23	0	1	7	13	4	1	18	5
40. この。ビルの。ど。こ。に。いても、しゃべ。っ。て。い。る。こ。と。が。聞。こ。え。ち。ゃ。う。	21	2	1	24	0	0	21	2	1	17	5	2
41. み。ん。な。は。高。島。君。を。リ。ー。ダ。ー。と。し。て。従。っ。て。る。	23	0	1	22	0	2	23	0	1	12	7	5
42. 郁江。ちゃん。は。女。た。ら。し。の。手。口。を。よく。知。っ。て。い。る。	24	0	0	24	0	0	23	0	1	17	4	3

助動詞「ようだ」「みたいだ」「らしい」「だろう」

	ようだ			みたいだ			らしい			だろう		
	○	×	△	○	×	△	○	×	△	○	×	△
43. 寝ぼける癖がある。	23	1	0	23	1	0	23	0	1	17	2	5
44. 東君は大きな釣鐘ものね。	22	0	2	16	6	2	3	18	3	0	24	0
45. どういう態度を取るべきか迷った。	23	0	1	22	1	1	22	0	2	16	5	3
46. 井沢は娘の郁江を崇拜している、と由紀は思った。	23	0	1	19	2	3	19	3	2	14	6	4
47. 高鳥君と彼らはどうも割れてしまった。	24	0	0	24	0	0	23	0	1	1	21	2
48. 郁江などはそうは思っていない。	24	0	0	23	0	1	23	0	1	18	3	3
49. 丈の視線を意識する、顔色はますます蒼ざめてきていた。	15	3	6	15	3	6	18	4	2	0	21	3
50. 運転などはすっかり念頭から消えてしまっている。	24	0	0	23	1	0	23	0	1	19	4	1
51. 人の目にはそうは映らない。	24	0	0	22	1	1	23	1	0	23	0	1
52. 郁江は癌騒ぎで休んでいた間のブランクをすでに埋めてしまった。	24	0	0	22	1	1	23	1	0	17	4	3
53. 自分はよほど混乱した顔をしている。	22	0	2	19	2	3	23	1	0	12	9	3
54. 転生輪廻に確証があることは間違いない。	24	0	0	23	0	1	21	1	2	24	0	0
55. 「お姉さんの言うことはよく当たるからな」と丈は言ったが、 さほど気にしているもなかった。	23	0	1	17	3	4	5	14	5	0	24	0
56. 私は、父が即刻反対するかと思っていたのである。 が、父は、別に驚いたもなく、「この際、それも一つの方法かもわかりませんね」と、いい出したのである。	22	0	2	13	9	2	5	18	1	0	24	0

〈付記〉本稿は李建華が執筆し、小野の意見によって大はばに書き改めたものである。アンケートに用いた文例は「ようだ」の用例をもとに作成してあるため、「みたいだ」「らしい」「だろう」の分析のためには、なお不十分である。調査対象者も少人数で、年齢的にも地域的にも片寄りがある。小さな調査にもとづくささやかな考察にすぎないが、ひとまず、このような形で発表することにした。(1987年8月16日、小野)

(小野：本学教授旭川分校、李：本学旭川分校研究生・中国天津外語学院教員)